

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、全国の乳幼児の栄養方法及び食事の状況等の実態を調査し、母乳育児の推進、乳幼児の食生活の改善のための基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の対象及び客体

調査の対象は、平成17年国民生活基礎調査において設定された単位区内の世帯の世帯員で、平成17年5月31日現在で4歳未満の子ども(平成13年6月1日から平成17年5月31日までに生まれた子ども)とした。

調査の客体は、平成17年国民生活基礎調査において設定された単位区から、無作為抽出した2,000単位区内の4歳未満の子どもがいる世帯(約3,000世帯)で、その世帯員である4歳未満の子ども(約3,500人)とした。

3. 調査客体の概要

無作為抽出された2,000単位区内の世帯のうち、調査協力が得られた世帯数は2,330世帯、4歳未満の子どもは2,755人であり、このうち年齢等の必須情報が得られなかった33人を除外した2,722人(2,305世帯)を解析対象とした。

対象児の状況 (人)

総数	6か月未満	6か月～1歳未満	1歳～1歳6か月未満	1歳6か月～2歳未満	2歳～2歳6か月未満	2歳6か月～3歳未満	3歳～3歳6か月未満	3歳6か月～4歳未満 ^{*)}
2,722	124	348	376	309	341	349	312	563

^{*)}調査時点で4歳を超える場合(213名)も含む。

4. 調査の時期

平成17年9月の1日。

5. 調査の項目

妊娠中及び出産後の授乳に関する支援状況、授乳や離乳食の状況、子ども及び親の生活習慣等から成る。

6. 調査の方法

調査員が被調査世帯を訪問し、子どもの母親(もしくは、子どもに食事提供を行っている養育者)に調査票の記入を依頼し、後日調査員が回収する方式により実施した。

7. 調査の系統

厚生労働省—都道府県、政令市、特別区—保健所—調査員—被調査者